あさひ

令和5年12月
学校だより

横浜市立旭小学校 SINCE 1901

体験的な学習で身に付ける力とは【続・続編】

副校長 岩元カオリ

富士山が雪化粧する季節がやってきました。今年は本当に暑さが長引き、11月の初旬まで冷房を入れる日があったかと思えば、「登校してくる子どもたちが教室に入ってほっとするように…。」と始業前、暖房をつけにいく職員の姿に心も温まったのも11月でした。寒さは日、一日と厳しくなりますが今日もあさひっ子の元気な声が聞こえてきます。

さて、10月31日～11月2日の3日間、5年生の御殿場宿泊体験学習に同行してきました。 学年集団としての学びを充実させ、「関わる力」を育成するための大切な学習活動としての宿泊体験学習です。4年生の宿泊体験学習が、小学校生活における宿泊体験学習の入門編、6年生では集大成、ではその間をつなぐ5年生の姿はどのようなものだったかをお伝えします。

写真は左から 第1日：酪農体験 →第2日：西湖 カヤック体験 → 第2日夜のキャンプファイヤー → 第3日 がんばったカレーライス

多くの子どもたちにとって小学校生活で2度目の宿泊体験学習です。家庭を離れ、自分たちだけで過ごす3日間は酪農体験・カヤック体験・富士山の自然学習、キャンプファイヤー、野外炊事でのカレー作りと盛りだくさんです。子どもたちはそれぞれのプロジェクトに分かれ、うまくやりとげ、最高に楽しもうと事前学習を重ねてきました。ところが最初の酪農体験で早くも「実は分かっていなかったのか。」と思いは打ち砕かれました。「牛の飼料を手にとって食べさせてやって。」と農家の方々に勧められるのですが、大きな牛に手をかまれると思うのか、腰が引けてなかなかできません。やりたい、やりとげたい。思いは十分あります。でもできない。このもどかしさ、葛藤。子どもたちが作ったしおりにはこんなときの対処法までは書いてありません。子どもたちはどう乗り越えたのでしょうか。子どもたちはもう一度酪農家の方の近くでえさのやり方を見せてもらったり、気の優しそうな牛を教えてもらったりし始めました。そうこうするうちに「できた。」「手から食べてくれた。」成功する子どもも現れます。「もう一歩前に行くの。」「手を下から押し上げて。」知っていることとできること、自分の力と周りからの情報とを合わせて瞬時に調整をはかりながら、一心に体験のときを過ごしていました。そこには個々の学びや育ちが自然な形で周囲にも伝わり広げられていく姿がありました。

最終日のカレー作りにもはりきって取り組みました。ところがここでも「あれ、おかしい。」の声が聞こえてきます。野菜の準備はばっちりなのに、なぜかどうやっても火がうまくつかない班、順調に火おこしはできたのに、鍋の中身がまだ空っぽの班。時間内にカレーができなければ昼ご飯抜きで帰りのバスに乗らなければなりません。班の友達同士の関わり合いはもちろんのこと、班と班との間でも情報交換が行われ、同じく子どものカレー作りに昼ご飯がかかっている教師の助けも借り、最終的にはどの班もおいしいカレーを食べることができたのでした。

子どもたち一人一人の関わる力が、友達の絆と体験によって集団としての成長に高まっていく3日間をこの目で見届けることができました。子どもたちは1日目よりは2日目、2日目よりは3日目、できることが増え、自信をつけていきました。宿舎の清掃や野外炊事の片付けにも全力で取り組み、しっかりとやりとげました。「次は片品だ。」と帰りのバスの中で早くも次の目標を見据えていた5年生たちは、自分たちの成長を実感した誇らしさに輝いていました。